

第1学年社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 平成30年10月26日（金）



1. 単元名 中世 「2 武士政権の内と外」

2. 単元目標

- (1) 鎌倉幕府の衰退や、南北朝時代、室町時代前半に関する学習を通して、意欲的に中世の武士政権の変容を追究しようとする。[社会的事象への関心・意欲・態度]
- (2) 南北朝を経て室町幕府の支配へと変化する背景や、その支配体制に関する特色について適切に説明することができる。[社会的な思考・判断・表現]
- (3) 南北朝や室町幕府、東アジアとの交易に関する資料を読み取り、考察の材料として適切に用いることができる。[資料活用の技能]
- (4) 鎌倉幕府の衰退や、南北朝から室町幕府に至るまでの人物やできごと、およびその相関を正しく理解している。[社会的事象についての知識・理解]

3. 単元構想

(1) 教材について

我が国の歴史において、中世は、それまでの天皇や貴族による朝廷の支配から、武士の登場によって朝廷と武士の二元的な支配が展開され、武士の力が広がっていく時代であるといえる。しかし、鎌倉時代までに作られた全国の武士を幕府が一元的に統率するしくみは、南北朝統一後の室町時代には管領と有力守護大名の合議で政治が行われるようになり崩れていく。その中で、生産力の向上を背景に、支配する武士に一揆で抵抗し自治を行うなど、民衆が力を伸ばしたことも中世の特徴であると言える。学習指導要領の内容（3）アでは、「鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかわりがみられたことを理解させる。」ことが求められている。武士の支配の様子の変容を掴み、庶民の力の向上の背景を考えることで、中世の様子を大きく捉えることができると考える。また、その混沌とした時代の様子をきちんと掴むことによって、その後の天下統一から江戸幕府へ続く近世に求められた世の中の秩序の意味が理解できると考える。

中世全体を「1. 武士の世のはじまり」「2. 武士政権の内と外」「3. 人々の結びつきが強まる社会」「4. 中世の文化」の4つの小単元で構成し、その中で本単元は二番目として、鎌倉幕府の滅亡から南北朝時代、室町時代前半までに武士の支配体制が変容したことを扱う。争乱の時期を経て、有力な守護大名が各地域を掌握し、幕府（将軍）が全国の武士を一元的に支配する力が弱まったことを理解させたい。これは、その後民衆が一揆や自治を通じて力を伸ばしていく大きな時代の変化を学ぶ背景として大切な内容であると考えられる。

(2) 生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

本単元では、鎌倉時代の武士に対する一元的な支配が、南北朝の争乱を経て、室町時代には幕府（将軍）に並び立つ存在として有力守護大名の支配が強まり変化したことが理解できるよう学習を進めたい。そこで単元を貫く問いとして「鎌倉→室町、武士の支配はどのように変わったのだろうか？」を設定する。

学習内容ごとの小さな問いを設定し、その解決の積み重ねによって単元を貫く問いに迫れるよう単元を構成する。第一次において元寇後に鎌倉幕府の「御恩と奉公」による主従関係が崩れたこと、第二次では南北朝の争乱の中で、各地方の有力な守護大名の力が強まったことを押さえる。その上で第三次・四次では守護大名が貿易や荘園支配など経済力で領国や地方を掌握する存在になり、幕府は存在するものの一元的な支配体制ではなくなったことを、守護大名の権限が拡大したことを示す資料を通して見抜かせたい。小さな問いに対する答えは生徒個人で自分なりの答えが導けるよう、ワークシートの作業やICT機器を用い、資料や参考になる友達の意見を提示して支援したい。

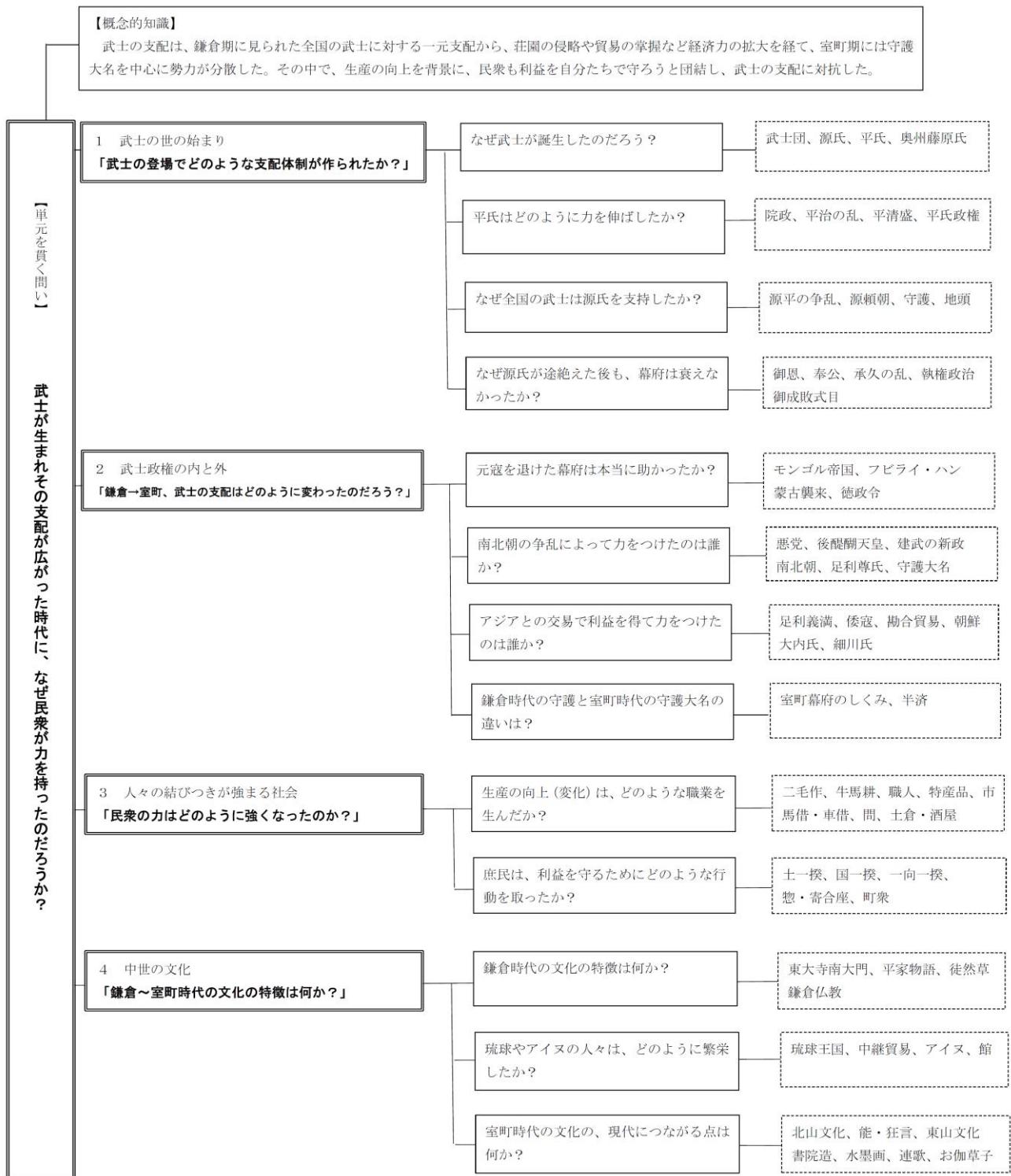
小単元（2 武士政権の内と外）を貫く問いに対する答えは、説明の文章でまとめる活動を取り入れる。説明の文章を考えることで、学習内容をふり返り、事象のつながりを考えさせたい。その際まとめとして概念的知識に近づけるよう、キーワードを示すことで生徒の思考を支援したい。また個人では内容に差があると思われるため、小グループでの話し合いを用い、友達の意見も聞き、補い合いながら説明を完成させることで目標に迫りたい。

4. 本校研究とのかかわり

本校の研究主題は『互いを認め合い、主体的に学ぶ生徒の育成～「ともに学ぶ授業づくり」を通して～』である。「主体的に学ぶ」を「物事や現象に心を動かし、自分なりの考えや疑問（課題）を持つ」ととらえ、また「ともに学ぶ」を「自分の考えと友達の考えを比較し、良さや違いを認め合うことで、自分の考えや理解を広げたり、深めたりしようとする」と捉えて、思考力の育成をめざす授業改善を柱に取り組んでいる。

社会科の学習においては、「生徒の学習を深める意欲を高め、それが継続できるような学習課題や単元構成、活動内容の工夫」として『多様な考えや解決の仕方が出てくるような学習課題の設定』を図り、「生徒の考えを広げたり深めたりするための学習形態の工夫と、ICT機器活用など個や集団に応じた適切な支援の工夫」として『ペア活動やグループ活動など、生徒同士の関わり合い（対話・声がけ・補助）が生まれる学習場面の設定』と『ICT機器の効果的な活用による「わかる」授業づくり』をめざして取り組んでいる。

5. 単元構造図（中世全体）



6. 指導計画と評価

学習活動	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	資料活用の技能	社会的事象につ いての知識・理解
鎌倉～室町、武士の支配はどのように変わったのだろうか？				
<p>1 元寇と鎌倉幕府の崩壊</p> <div data-bbox="150 546 451 674" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 元軍を退けた幕府は本当に助かったか？ </div> <p style="text-align: right;">1 時間</p>	<p>小単元の問いを意欲的に追究しようとしている。</p>			<p>元寇をきっかけに御恩と奉公の関係が崩れたことを理解している。</p>
<p>2 南北朝と室町幕府の起こり</p> <div data-bbox="150 909 451 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 南北朝の争乱によって力をつけたのは誰か？ </div> <p style="text-align: right;">1 時間</p>			<p>南北朝に関する読み物資料や地図資料から、不安定な社会情勢を読み取ることができる。</p>	<p>南北朝の争乱により、全国の武士の勢力が二分されたことを理解している。</p>
<p>3 東アジアの交易と倭寇</p> <div data-bbox="150 1279 451 1464" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> アジアとの交易で利益を得て力をつけたのは誰か？ </div> <p style="text-align: right;">1 時間</p>			<p>明との貿易を進めた背景を、地図や資料から正しく読み取ることができる。</p>	<p>東アジアとの交易で、利益を握ったのは誰かを理解している。</p>
<p>4 室町幕府のしくみ</p> <div data-bbox="150 1659 451 1845" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 鎌倉時代の守護と室町幕府の守護大名の違いは？ </div> <p style="text-align: right;">1 時間 (本時)</p>		<p>既習の知識を統合して、守護大名が力を持った背景を説明している。</p>		<p>鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いを理解している。</p>

7. 本時の学習

(1) ねらい 地方を支配する武士の役割や権限が拡大したことを理解し、鎌倉幕府と室町幕府の支配の仕方の違いを考え、説明することができる。

(2) 展開

学習活動（・内容 ○生徒の反応）	教師の支援	○教具 ※評価
<p>1 前時までをふり返り、地方で守護大名の力が伸びたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝方の守護大名の拡大 ・貿易の掌握 <p>2 本時の問いの答えを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いは？</p> </div> <p>①予想の根拠となる資料を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幕府の高い位を占めた。 ○荘園から収入を得た。 ○将軍に対して反乱を起こしている。 <p>②見つけた資料をもとに、考えた本時の問いの答えを文章化し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉時代の守護は武士を統率する。 ○室町時代の守護大名は、国全体を支配している。 <p>3 単元のまとめの問いの答えを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>鎌倉時代は、将軍と御家人は「御恩と奉公」の関係で結ばれていたが、室町時代はその関係が崩れ、将軍の力が弱まった。その理由を50字で説明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○元寇で信頼関係が崩れた。 ○室町幕府は、守護大名が大きな力を持った。 ○将軍の支配力が弱く、守護大名の力が伸びた。 ○南北朝の内乱で守護の権限を強めた。 ○元寇で信頼関係が失われた上、南北朝の内乱で守護に強い権限を与えて守護大名が強い力を持ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容がふり返れるよう、記入した「問い」のシートを用いる。 ・両時代の資料が並べて比較できるよう提示し、予想させることで、調べる動機付けを図る。 ・生徒が見つけた資料は、全体で確認できるよう、電子黒板で提示する。 ・発表時に、考えの根拠となる資料も提示しながら、全体で共有する。 ・友達の見解も参考にできるよう、グループで相談させる。 ・ねらいに近づけるために、キーワードを用いて考えさせる。 ・グループごとの発表に対して、共通点を確認したり、参考になる表現を取り上げたりして、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」のシート ○ワークシート ○教科書 ○資料集 ○タブレットPC ○ワークシート ○ホワイトボード <p>※幕府自体の力の乏しきや守護大名の力の大きさを表現できる。</p> <p>[記述・発言]</p>

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手だて
室町時代には将軍の力が弱まった理由を、元寇や南北朝の内乱との関連や、守護と守護大名の違いを踏まえて説明している。	室町時代には将軍の力が弱まった理由を、守護と守護大名の違いを踏まえて説明している。	既習の学習のふり返りを促し、友達の意見を参考にさせる。

8. 研究協議の視点

- 単元の目標にせまるための、単元構成や「問い」は適切であったか。
- ねらいにせまるために、本時のグループ活動やICT機器の利用は適切であったか。